

ラゴ&ピース

読谷小学校 五年三組 當山 南奈

今年は、沖繩戦後から七十七年、沖繩が復
帰して五十年目にあたります。テレビや新聞
で、沖繩戦や復帰後の沖繩を勉強することが
出来ました。

戦争の歴史の中で沖繩戦が特に悲さんと言
われているのは、県民の四人に一人といわれ
るほどの住民をまき込んだ地上戦が行われた
からです。

私が新聞を読んで悲しくなったのは、対馬
丸ゆきちん事件です。

足手まといになる女性や子供、お年よりを
島外へ立ちのかせるのが目的でした。

しかし、海はすでに戦場で軍は危険を知っ
いたそうです。ぎせいになつたのは、そかい
の人達と船員ら合わせて1484人。その約
半数784人は子供達でした。

黒い海に投げ出され、6日間もひよりやう
して助か、た人が「運が強いのか、それとも

気が強いのか、よく生きているなと思う。と
今でもさかい悪感を持ったまま生きていること
を知り、私は悲しくなりおねが痛くなりました
た。

私の兄と同じ年で「学徒隊」として戦う
に参加させ老人、女性、子供達にも飛行場や
じん地造り、食料の調達をさせたりです。

私は今、好きな物を食べ、好きな習い事を
し、友達と勉強や遊びを毎日楽しく過ごして
います。

七十七年前の子供達は大人達に口答えもで
きず、食べ物も不自由に生きることを許さな
いきょうふをあげられたそうです。

戦争体験の話をしてくれた祖母が「今まで
子供や孫に話をしてこなかっただ。でも、平和
な時代に生まれたい子供達に自分の体験した戦
争を話すことで、今の私たちがどれほど幸せ
かを伝えたい」と言っています。

テレビや祖母の話聞き、今ウケライナで
おきているニュースを見ると、昔も今も子供

達がぎせいにあってゐる。

私は、これから平和について先生や友達と
たくやん話し合つて世界中の子供達が私のよ
うに一日一日を楽しく過ごせるような平和な
世の中になるように自分が出ることをはかん
ばりたと思います。